

つかむ

調べる

まとめる

深める

～相手意識をもち、地図を用いて国土の位置や広がりを表現する活動～

### 1. 小単元名『日本は世界のどこにある？』

(教科書：『小学社会 5 上』 p.6～13／学習指導要領：内容（1）ア）

### 2. 小単元の目標

地図や地球儀、資料などを活用して調べ、日本の国土の位置や領土、世界の主な大陸や海洋、主な国の名称と位置、主な国の国旗について捉えさせる。

### 3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
地図や地球儀を活用して、日本の国土の位置や広がり、近隣の国々と領土、世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置について関心をもって調べようとしている。	世界の国々・大陸・海洋の名称や方位などを用いて、日本の国土の位置や広がりについて適切に表現している。	地図や地球儀を使って、日本の国土の位置や領土、世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置についての確に読み取ったり、おおまかな方位や距離を確かめたりしている。	日本の国土の形や位置、広がり、近隣の国々との位置関係、世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置がわかるとともに、領土をめぐる問題や国旗の大切さについて理解している。

### 4. 指導にあたって

#### (1) 教材について

学年最初の小単元として、資料活用の基本的な技能を身につけさせたい。特に、地球儀と地図の活用については、今後の学習でも様々な場面で必要となってくる。球体としての地球を歪みなく表現できる点が地球儀の最大の長所であることをふまえ、丁寧な指導を心掛けたい。また、地球儀はなるべく多くの数を確保し、多くの子どもに触れさせるようにしたい。

また、本小単元では、日本の国土の位置や領土、世界の主な大陸や海洋、主な国の名称と位置、主な国の国旗について捉えさせることが目標となる。4年生での学習から大きく視点が切り替わるため、丁寧な指導を心掛けたい。

#### (2) 指導上の工夫・留意点

本小単元では、地球儀を積極的に活用していく。よって、授業中だけではなく、なにか気になったときはすぐに地球儀で確認できるように教室に常設し、児童が地球儀や地図に親しめる環境づくりに努めることが大切である。

また、5年生の社会科の学習として最初の小単元でありながら、覚えなければならない基礎的・基本的語句が非常に多く、児童にとっては非常に難しいと考えられる。よって、地図帳や地球儀を活用し、ペアやグループなどで簡単な地図を描いたり、白地図での着色をしたりする作業的な活動を行う。そのように、皆で確認しながら学習を進めていくことで、苦手意識をもたずに今後の社会

科の学習に取り組ませていきたい。また、世界から日本を捉えていく小單元ではあるが、常に「日本」という変わらない視点を児童にはもたせていきたい。

また、本時の授業の前半部分では、日本の領土をめぐる問題について学習する。この段階においては、①地理的な名称と位置を調べ、理解させること、②日本の主張に正しく触れるようにすること、③「平和的に解決する」という方向性を忘れずに指導すること、上記3点を念頭に指導していきたい。

## 5. 小単元の指導（総時数4時間）

時数	ねらい	○学習活動
② (つかむ・調べる)	世界の主な大陸と海洋, 主な国の名称と位置を調べるとともに, 地球上の位置を表す緯度・経度・赤道などについて理解し, 世界の中の日本の位置関係を調べられるようにする。	○地図や地球儀を活用して, 世界の主な大陸や海洋, 主な国の名称と位置を調べたうえで, 世界の中の日本の位置や広がりについて学習問題をつくり, 世界との位置関係を地球儀で調べる。
② (調べる・まとめる)	日本を構成する主な島々や, 日本の東西南北の端, 周りの国々の位置について調べ, 日本の位置や国土の広がりについて理解できるようにする。	○日本の国土の位置や形, 東西南北の端や周りの国々の名称, 国旗, 日本を構成する主な島々をめぐる諸課題について調べ, 国土の特色をまとめる。

## 6. 本時の指導（第4／4時）

### (1) 本時のねらい

日本を構成する主な島々や周りの国々の位置, 領土をめぐる諸課題について調べ, 日本の位置や国土の広がりについて理解できるようにする。

### (2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時は, 学習問題に対してのこたえを出す時間である。この小単元の学習問題には様々なこたえ方が考えられ, 児童にとって意欲的に取り組むことができると考える。

ここでは, 地図を活用しながら学習問題のこたえを発表させるようにする。ペア→グループ→学級全体と場を変化させつつ, 地図上の位置を具体的に指で示しながら説明をさせる。このように, 繰り返し相手意識をもった伝え合い活動をすることで, 児童の思考をより深め, **確実に学習内容を理解させることができるようにしたい**。また, ペアやグループ内での伝え合い活動を通して, 互いの表現を確認し合うことで, 学級全体の場では自信をもって発表できるものと考えられる。このように, **スモールステップで学習を進めていき, 高学年社会科の第一歩として社会科好きの児童を育てていきたい**。

(3) 本時の展開（「調べる・まとめる」の2時間扱いのうち、本時は2時間目を扱う）

時配	○学習活動 T:発問 C:児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
5	<p>○本時の課題を確認する。</p> <p>T:ここまで、日本の周りの国々や日本の端にある島々について学習してきましたね。どんな国々、島々がありましたか？</p> <p>C:中国です。</p> <p>C:東の端には、南鳥島という島があります。</p> <p>T:日本と周りの国々には、ある島をめぐる領土に関わる問題があるって聞いたことはあるかな？</p> <p>C:聞いたことがあります。</p> <p>C:知らないなあ…。</p> <p>T:今日はそれについて学習していきましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>課題</b></p> <p>日本には、他にどのような島々があるのだろうか？</p> </div>	<p>◎資料 ◇留意点 ◆評価</p> <p>◎<input type="checkbox"/>ア 日本の国土の周りの様子</p> <p><input type="checkbox"/>イ 日本の西のはし（与那国島）</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 日本の南のはし（沖ノ鳥島）</p> <p><input type="checkbox"/>エ 日本の北のはし（択捉島）</p> <p><input type="checkbox"/>オ 日本の東のはし（南鳥島）</p> <p>（教科書 5 上 p.10,11）</p>
5  5	<p>○領土をめぐる諸課題について知り、ペアで白地図に着色をする。</p> <p>T:それでは、教科書の本文を読んで確認しましょう。どんなことが分かりましたか。</p> <p>C:北方領土という島々が日本にあって、ロシアとの間に問題があることが分かりました。</p> <p>C:韓国との間に、竹島という島をめぐる問題があります。</p> <p>T:では、それらの島の位置を、白地図に色を塗って確認しましょう。</p> <p>○これらの問題に対し、どうしていけばよいか考える。</p> <p>T:これから、どうしていけばよいかかな？</p> <p>C:ちゃんと日本の領土としてほしい。</p> <p>C:戦争とかじゃなくて、平和的に解決して欲しい。</p> <p>T:そうですね。最後に、日本がこの問題をどう捉えているか、教科書を読んで確認しましょう。</p>	<p>◎<input type="checkbox"/>ア 北方領土、竹島、尖閣諸島の位置（同 p.12,13）</p>  <p>◎地図帳</p> <p>◎白地図</p> <p>◇ペアで課題に取り組み、①地図上で位置を探す児童、②着色をする児童と分担して活動する。</p>
25	<p>○ペアやグループで、小単元の学習問題のこたえを考えたあと、学級全体に向けて発表し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>学習問題</b></p> <p>日本は世界のどこにあり、国土の広がりはどうな様子だろうか？</p> </div> <p>T:それでは、「日本は世界のどこにあるのか？」「国土の広</p>	<p>◇本小單元については、学習した様々な言葉を用いて、学習問題のこたえを出せればよいこととする。また、「世界から見た日本」という意識を強くもたせる。</p>

がりはどのようになっているのか？」の2点について、地図をしっかりと指でさし示しながら、自分のこたえを隣の人に伝えましょう。

C：日本は、オーストラリアのほぼ北に位置しています。

C：日本は、日本海を挟んで韓国の東側に位置しています。国土は、南北に細長くなっています。

相手意識をしっかりとめ、相手に説明するという場を設定することで、日本と他国、海洋等との位置関係や、国土の広がりを実に理解できるようにする。

C：アメリカからだ、日本は西側かな、東側かな。

C：日本は四方を海に囲まれている島だよ。

C：日本は島国で、本州の他にもたくさんの島々があるよ。

T：それでは各班の代表の皆さん、みんなに日本の位置と国土の広がりの方がよく分かるように紹介してください。

C：ロシアから見て、日本は南にあり、オホーツク海で隔たれています。また、北方領土をめぐる問題が2国間にはあります。

C：アルゼンチンから見て日本は地図上で北西にあり、その間には太平洋があつて、日付変更線も通っています。また、日本の周りには韓国や中国、朝鮮民主主義人民共和国などの国があります。

発表をする児童と、地図上で位置を指し示す児童というように、グループ内で役割分担を行い、発表内容を一人ひとりがより理解できるようにする。

5 ○学習問題のこたえをまとめ、振り返る。

T：それでは、今日の学習をふまえて学習問題のこたえをまとめていきましょう。

#### 学習問題のこたえ

日本はユーラシア大陸の東側にあり、西側を日本海、東側を太平洋に囲まれた場所に位置している。多くの島々が日本には存在し、南北に細長く国土が広がっている。

T：一人ひとりがしっかりと学習問題のこたえを考えたことができたね。では、今日の学習を振り返りましょう。

C：日本がどんなところにあるかが分かりました。

C：日本の周りがどうなっているのかが分かりました。

◇自分の地図を確認しながら、日本の国土の位置や広がりについての相手の説明を聞くように促し、理解を確かなものにする。

◇一つのグループでも、可能ならば様々な紹介の仕方を考えてよいことを伝える。

#### ◎掲示用世界地図



◇グループの代表がプレゼン形式で発表し、聞く側は「日本の国土の位置や広がりの方がどうなっているかが分かったか」という観点で評価する。

◇これまでの授業で学習した言葉を用いつつ、教師主導でまとめていく。

◆世界の国々・大陸・海洋の名称や方位などを用いて、日本の国土の位置や広がりの方を表現している。

(思・判・表／ノート、発表)